

ヴィクトール・フランクル

～おじいちゃんからのレッスン～¹

アレクサンダー・ヴェセリ＝フランクル

皆さんこんばんは。祖父ヴィクトール・フランクルの人生と教えをふり返る機会をいただき感謝します。

祖父は『夜と霧』の著者として知られ、それは今も世界中の人々を励まし続けています。祖父はロゴセラピーと実存分析の創始者で、「意味」の探究を中心に置く革新的アプローチを生み出しました。

しかし私にとってはただの「おじいちゃん」。心が温かくて遊び心にあふれた、地に足がついた人でした。彼の揺るぎない楽観主義と喜びは今も私の励ましです。

私は、23歳まで、彼のことを個人的に知る特権がありました。

祖父は、愛とユーモアと尽きることのない好奇心を体現する人で、シンプルな喜び、つまり朝のコーヒーや絶妙なジョークを楽しんでいました。たまに声を荒げましたが、すぐ自分の不完全さを素直に認めました。

また、祖父の役割は甘やかすことであり、しつけではないと信じていました。彼は、導きと癒しを惜しみなく与えてくれました。祖父の思い出は、笑いと愛情に満ちています。

子どものころ、日曜日によく家族の動画を見ました。ほとんどは、祖父が愛したラックス高原で撮ったもので、私たちは、一緒に笑い、家族の絆を強めました。その体験は、映像メディアへの私の愛を育みました。祖父は深く理解していたのです。人生の意味は、しばしば、ありふれた日常のやりとりの中に存在するということを。